山陰中央新報　山陰経済欄　2015年6月18日（木）

県西部進出のＩＴ３社
トップ３氏 思い語る
浜田・県立大でセミナー

地域振興への思いなどを語る進出企業の経営者ら＝浜田市野原町、島根県立大学

島根県西部に開発拠点を設けたＩＴ関連企業３社を招いたセミナーが17日、浜田市野原町の島根県立大学であった。経営者が進出の経緯や思いを発表し、ＩＴ人材の働く場の創出など地域経済の活性化に向けて意見を交わした。

３者はそれぞれ津和野町、大田市、浜田市に進出したバルトソフトウェア（大阪市）の山越正俊社長、日本ワイドコミュニケーションズ（東京都）の松井保社長、ｅ―Ｆｒｏｎｔ（同）の佐々木大輔・島根支社長。

進出の狙いについて、山越社長は駅の自動券売機などのソフトウエア開発で、拠点のリスク分散を図るためと説明。津和野町で中学、高校時代を過ごした縁もあり、「ソフトウエア企業がない地域で挑戦したかった」と話した。

大田市出身で、ウェブサイト制作などの会社を東京で立ち上げた松井社長は地元貢献の思いを語る一方、「いい人材がいてこそ拠点は成り立つ」と、決断力など求める人材像を説いた。

浜田市出身の佐々木支社長は、地域の人材を育てる学校教育の重要性を力説。旅行業のシステム開発の傍ら、地元の高校や大学で講義していることを紹介した。

セミナーは県が主催し、学生や自治体職員ら約90人が参加。ＩＴ企業などの誘致を進める、ＮＰＯ法人グリーンバレー（徳島県神山町）の祁答院弘智理事の講演もあった。